

2025 年 3 月 15 日

2024 年度プラズマエレクトロニクス分科会  
春季インフォーマルミーティング議事次第（報告順）

開催日：2025 年 3 月 15 日（土）12:00 大分類意見交換会終了後～

開催場所：東京理科大学野田キャンパス（講義棟 1 階 102 号室）

書記（ソニーSS/財前）

1. 春季および秋季学術講演会における分科会の企画について【5分】

- ・分科内招待講演【石川】
- ・海外招待講演【呉】
- ・シンポジウム【長澤】

2. プラズマ新領域研究会報告（竹内）【5分】

4. プラズマプロセシング研究会（SPP-42）報告（竹内、金沢）【5分】

3. プラズマエレクトロニクス講習会報告（松井）【5分】

8. 会報について（財前）【5分】

5. 第 23 回プラズマエレクトロニクス賞選考について（古閑）【5分】

6. 2024 年度会計報告（古閑）【5分】

7. 2025 年度分科会幹事について（古閑）【5分】

9. その他（古閑）

- ・DPS 2025 との共催について
- ・ICRP12/SPP44 開催案内
- ・その他会議案内（）

資料 URL

[https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE\\_files/2024/PE25springmeeting.html](https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE_files/2024/PE25springmeeting.html)



# プラズマエレクトロニクス分科会



- 2. 春秋講演会シンポジウム
- 担当幹事： 石川健治，古閑一憲，松井都，竹内希，長澤寛規，新田魁洲，吳準席
- 退任予定： 谷出敦，平松亮，田中宏昌
  
- 1. 分科内招待講演（石川）
  - 2023春 堀 勝(名大), 秋 寺嶋和夫(東大) ,
  - 2024春 宮島秀史(キオクシア), 秋 浜口智志(阪大) ,
  - 2025春 栗原一彰(キオクシア)
- 2. 海外招待講演（吳）
  - 2024秋 Prof. Eun Ha Choi (Kwangoon U, Korea),
  - 2024秋 Prof. Magdaleno Vasquez (University of the Philippines Diliman)
- 3. 秋シンポジウム（長澤，新田）
  - 2024秋 プラズマ活性溶液とその応用

# 分科内招待講演



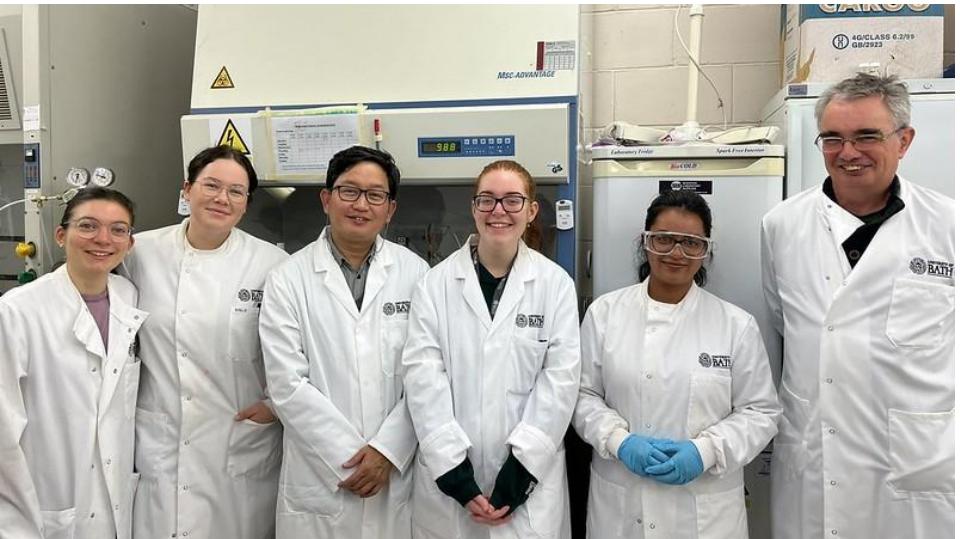
- 九州大学 高等研究院 院長
- 九州大学 大学院システム情報科学研究院 教授
- 九州大学 主幹教授
- プラズマ理工学
- 昭和57年からプラズマ理工学に関する研究に従事。特に、Si薄膜太陽電池の作製に用いるシランプラズマ中で発生するナノ粒子に関する研究に注力してきた。最近、ナノ粒子制御により従来にない高品質なa-Si:Hを作製できることを示した。また、平成16、17年度にはNEDOの受託研究としてナノ結晶シリコン薄膜セルの研究開発に従事した。応用物理学会第3回プラズマエレクトロニクス賞、応用物理学会第2回プラズマエレクトロニクス賞、日本学術振興会第1回プラズマ材料科学賞等の計7賞を受賞。



# Naing Thet (Research Fellow)

Department of Chemistry  
University of Bath

Email [ntt20@bath.ac.uk](mailto:ntt20@bath.ac.uk)



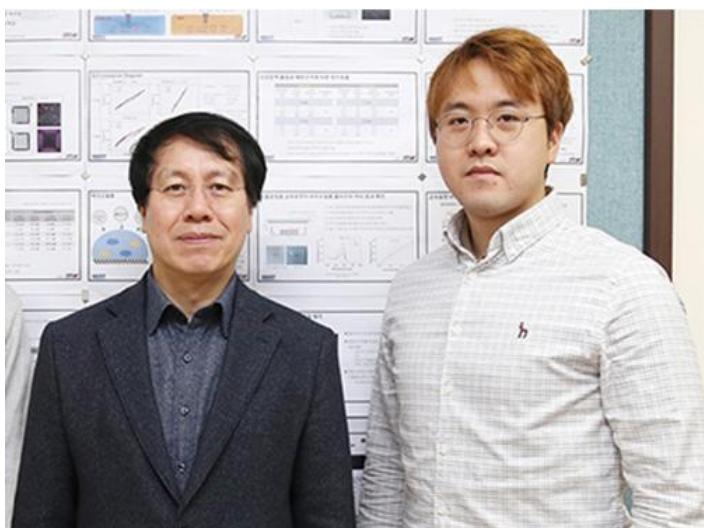
- Wound dressing
- Plasma treated hydrogel



## Sanghoo Park (Assistant Professor)

Department of Nuclear and Quantum Engineering  
KAIST(Korea Advanced Institute of Science and Technology)

Email [sanghoopark@kaist.ac.kr](mailto:sanghoopark@kaist.ac.kr)



- APP
- RONS in gas and liquid

# 応物2025秋シンポジウム企画 (プラズマ触媒反応)

プラエレ分科会担当幹事：

長澤 寛規, 新田 魁洲 (田中 宏昌先生, 谷出 敦さま)

大分類8代表：

林 信哉先生

# シンポジウム概要

## 「プラズマ触媒反応が拓く革新的物質変換技術（仮）」

### 【シンポジウム趣旨】

一般に、物質変換プロセスは、反応を推し進めるために多量の熱エネルギーを必要とする。非熱的なアプローチの活用は、このエネルギー消費を抑制し、低炭素で持続可能な物質変換を実現する上で不可欠である。プラズマ触媒反応をはじめとする先進的な物質変換技術はその有望な手段の一つであり、本シンポジウムでは、電場・プラズマ・触媒・電極反応などを融合した物質変換の全体像を俯瞰するとともに、メカニズムや応用例に関するご講演を通じて、今後の課題や展望について議論したい。

### 【シンポジウム構成】

招待講演 ~7件、一般講演 数件

# 候補者・候補テーマリスト

研究者	所属	テーマ	分類
野崎 智洋	東京科学大学	大気圧プラズマを基盤とした電子駆動触媒反応	概要
関根泰	早稲田大学	電場印加触媒プロセス	概要(非プラズマ反応)
金賢夏	産総研	プラズマと触媒の相互作用メカニズムの解明	概要 / メカニズム
寺本慶之	産総研	プラズマ触媒の反応場解析	メカニズム
高草木達	北海道大学	プラズマ触媒反応の機構解明	メカニズム
古川森也	大阪大学	低温プラズマ触媒反応によるメタネーション	メカニズム / 応用
寺島千晶	東京理科大学	水中プラズマによる物質(ダイヤモンド)・触媒合成	プラズマ源 / 応用
上坂裕之	岐阜大学	高密度基材包囲プラズマによるDLC製膜	応用
神原信志	岐阜大学	大気圧プラズマによるアンモニアからの水素製造	応用
都甲将	大阪大学	プラズマ触媒によるメタネーション( $\text{CO}_2 \rightarrow \text{CH}_4$ )	応用
佐々木浩一	北海道大学	プラズマ電解による水と空気からのアンモニア合成	応用
桑畠周司	東海大学	プラズマジェットを用いたアンモニアの室温合成	応用

## 2024 年度 新領域研究会 報告

東京科学大学 竹内希

2024 年度は 3 回の開催を予定していたが、2 回の開催となった。

- 第 44 回プラズマ新領域研究会（秋の IF で報告済み）  
「大気中非平衡プラズマの多種多様な応用展開とそれを支える基礎研究の最前線」  
日程：2024 年 9 月 27 日  
場所：対面（北海道大学）および Zoom によるハイブリッド開催
- 第 45 回プラズマ新領域研究会（第 25 回微粒子プラズマ研究会 (WFPP25) と合同開催）  
「プラズマ・微粒子間相互作用の揺らぎのフロンティア」  
日程：2025 年 1 月 16 日、17 日  
場所：対面（核融合科学研究所）および Zoom によるハイブリッド開催  
プログラム：次ページ

2025 年度は現地（もしくはハイブリッド）2 回、オンライン 1 回の計 3 回を予定

## 第42回プラズマプロセシング研究会（SPP-42）報告

SPP-42 プログラム委員長 東京科学大学 竹内希

1. 会議名称：第42回プラズマプロセシング研究会（SPP-42）
2. 主催：応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会  
(前回 SPP-41 より、旧 学術振興会 153 委員会による SPSM とは切り離して開催)
3. 協賛学会：プラズマ・核融合学会、静電気学会、化学工学会
4. 期間：令和7年1月28日（火）～30日（木）
5. 場所：J:COM ホルトホール大分（現地開催のみ）
6. 参加人数：合計 92 名  
内訳：一般 60 名、学生 28 名、招待 4 名
7. 講演件数：65 件  
内訳：プレナリー2件（応用物理学会 辰巳哲也様、東京大学 寺嶋和夫先生）、  
プラズマ材料科学賞 2024 受賞記念講演 1 件（名城大学 伊藤昌文先生）、  
招待講演 2 件、シンポジウム講演 7 件、一般講演 53 件（口頭 24 件、ポスター 29 件）
8. セッションの具体的運営：
  - ①オープニング：SPP-42 プログラム委員会委員長（プラズマエレクトロニクス分科会副幹事長）竹内希、現地実行委員会委員長 金澤誠司先生
  - ②パラレルセッションにはせず、全ての講演をシングルセッションにて実施
  - ③2日目午前に、特別企画シンポジウムとして、PE 分科会で作成した「アカデミックロードマップ」のお披露目シンポジウムを開催
  - ④初日午後に「プラズマ材料科学賞 2024 授賞式」および受賞記念講演を実施（司会 大阪公立大学 白藤立先生）
  - ⑤3日目クロージング：SPP-42 プログラム委員会委員長（プラズマエレクトロニクス分科会副幹事長）竹内希、現地実行委員会委員長 金澤誠司先生
9. 情報交換会：2日目講演終了後 参加者人数 33 名
10. コーヒーブレーク：休憩時
11. プラズマエレクトロニクス講演奨励賞（第4回）：21件の応募、SPP-42 プログラム委員会による厳正な審査の結果、プラズマエレクトロニクス講演奨励賞（第4回）として、令和

7 年 1 月 30 日付けで以下 2 件が受賞決定：

- 八井田朱音（東京科学大学）「セルソーターと誘導結合プラズマ飛行時間型質量分析計を用いた高選択性単一細胞中元素分析」
- 内海亮（東北大学）「電界誘導二次高調波生成法（E-FISH）を用いた大気圧プラズマの時空間電界計測」

なお、一次審査として予稿の審査を、二次審査として当日の発表の審査を行った。一次審査は口頭発表 4 名、ポスター発表 5 名の審査員で、二次審査は口頭発表 3 名、ポスター発表 4 名の審査員で審査を行った。

12. WEB サイト運営および参加料徴収関係：田中昭文堂印刷（金沢市）に委託、カード決済を基本（インボイス対応のため、現地委員会は現金にタッチしない方式）

13. 広告出社：合計 12 社様より（1 ページ広告 10 社、1/2 ページ広告 1 社）

14. 決算：ご質問があれば竹内までご一報ください

15. そのほか

- 基本的な運営方針は前回の SPP-41 と同一
- 会計に関しては、代行業者として実績ある田中昭文堂印刷様が、事情をよくご承知、価格もリーズナブルゆえ、選定
- 大きな黒字運営の主たる要因は、広告出社企業様が、多数出稿してくださったこと
- 現地実行委員の負担ができるだけ低減させるため、名札は各自手書きなど、アナログが使えるところはアナログで対応
- 特別企画シンポジウム「アカデミックロードマップ」については、古閑先生、白藤先生、各分野の主査をご担当された先生方と、プラ核からお招きした佐々木徹先生のご協力で開催できました。ありがとうございました。
- 次回 SPP-43 は大阪公立大学 吳先生を現地実行委員長として開催予定

SPP-42 の報告の最後に、以下の先生方の献身的なご協力に、心より感謝申し上げます。

【プログラム委員会委員】（敬称略）

松井都（日立製作所）、全俊豪（青山学院大）、田中宏昌（名古屋大）、谷出敦（SCREEN HD.）、  
吳準席（大阪公大）、田中学（九大）、村上朝之（成蹊大）、内田儀一郎（名城大）

【現地実行委員会委員】（敬称略）

委員長 金澤誠司（大分大）、副実行委員長 市來龍大（大分大）、実行委員 川崎仁晴（佐世保高専）、川崎敏之（西日本工大）、大島多美子（長崎大）、田中学（九大）



- ・半導体プラズマとプロセスの基礎 関根 誠 先生
- ・電気的・光学的プラズマ計測技術の基礎と応用 占部 繼一郎 先生
- ・熱プラズマの基礎と応用 渡邊 隆行 先生
- ・先端エッチングプロセスにおける原子層レベル制御技術 西塚 哲也 先生
- ・機械学習を活用したプラズマプロセスの解析と制御 鎌滝 晋礼 先生

	人数
総参加人数（講師の先生方含む）	88

現地開催のみでしたが非常に多くの参加者数となりました。  
講師の先生方、ご参加頂きました皆様、幹事の皆様に、心より感謝申し上げます

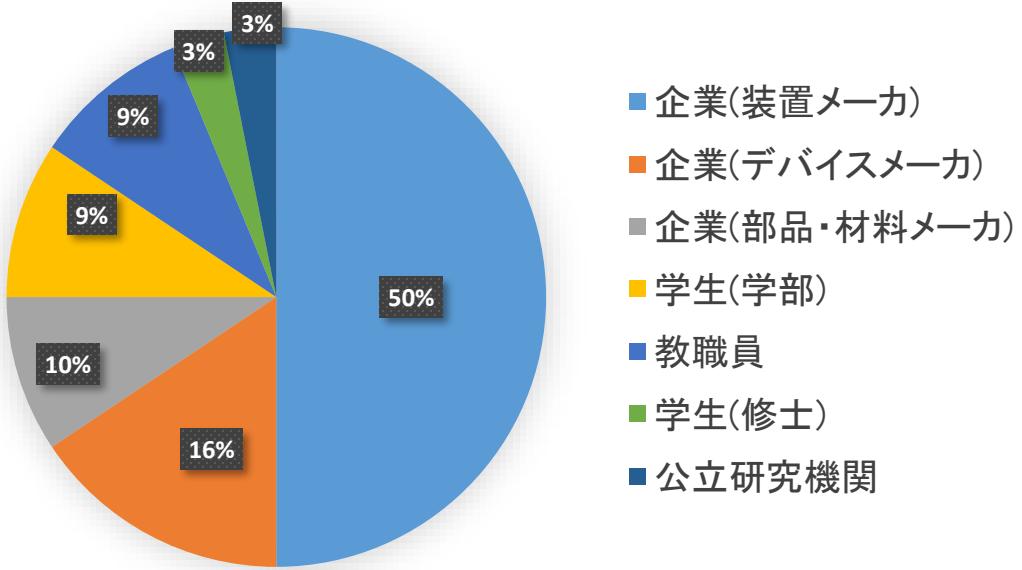
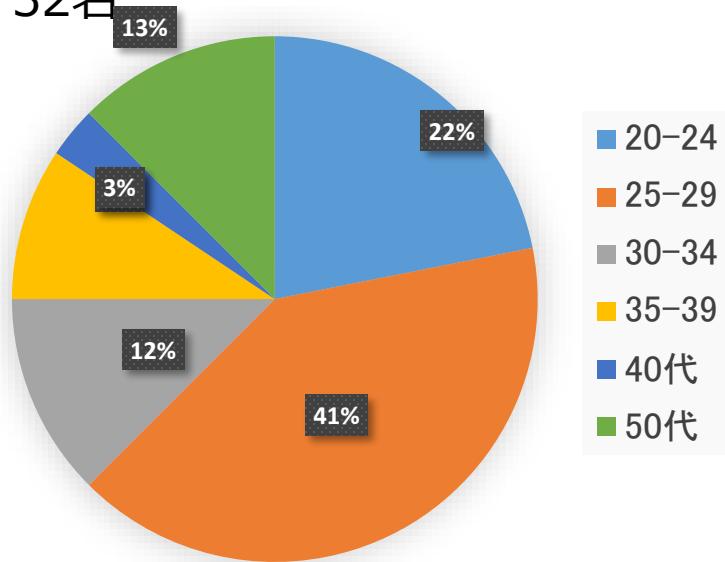
# 第35回プラズマエレクトロニクス講習会 アンケートまとめ

報告者 パナソニックホールディングス株式会社

天野 智貴 (アマノ トモキ)

# 概要

有効回答数  
32名



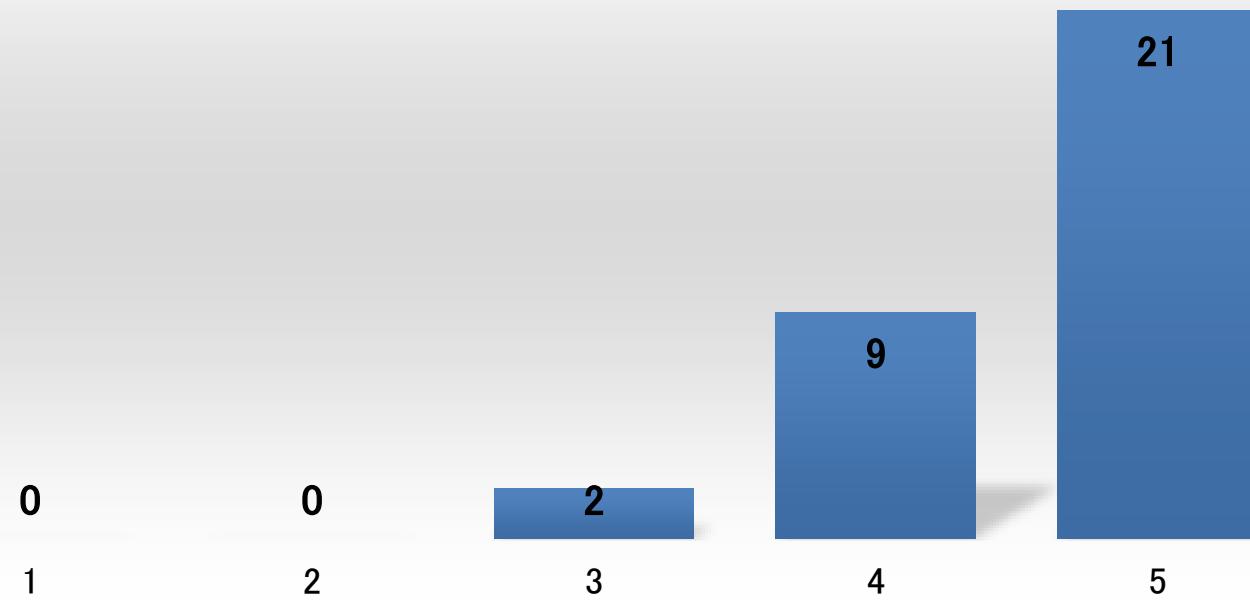
## トピックス

- 参加者の8割以上が40歳未満の若手
- 企業参加者が約7割以上

# 講習会の意義

講習会に参加して有意義であったと思われますか？

平均評価：4.59



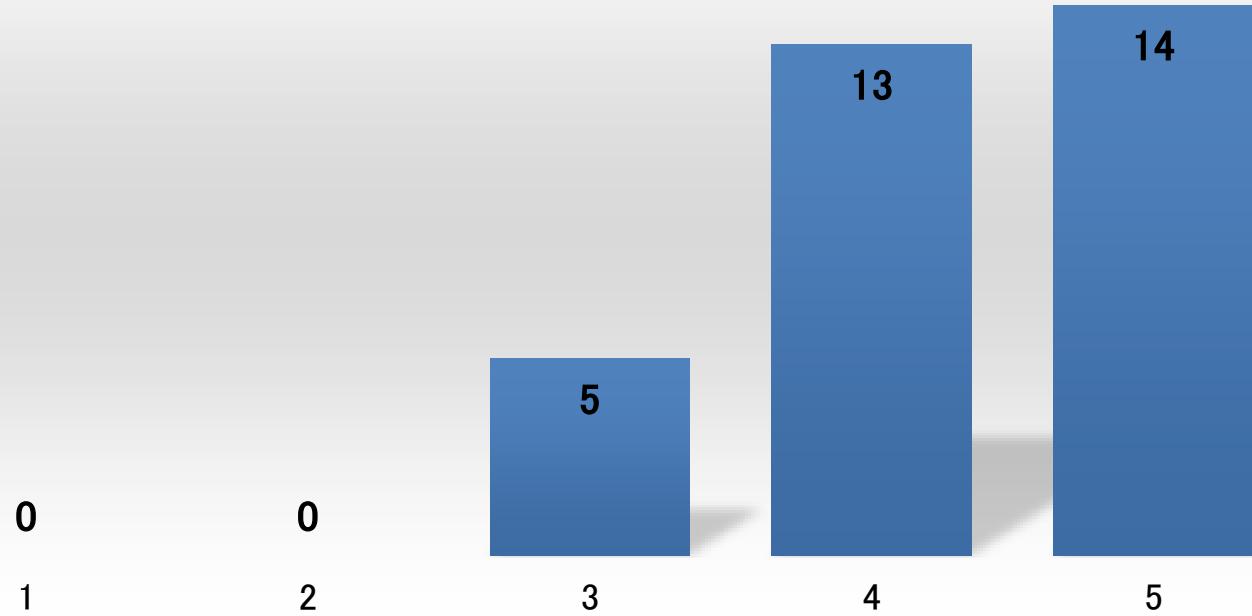
## トピックス

- 回答者の約9割が4以上の高評価
- 多くの受講者にとって、有意義な講習会になった

# 講習会内容について

講習会の内容は分かりやすかったでしょうか？

平均評価：4.28



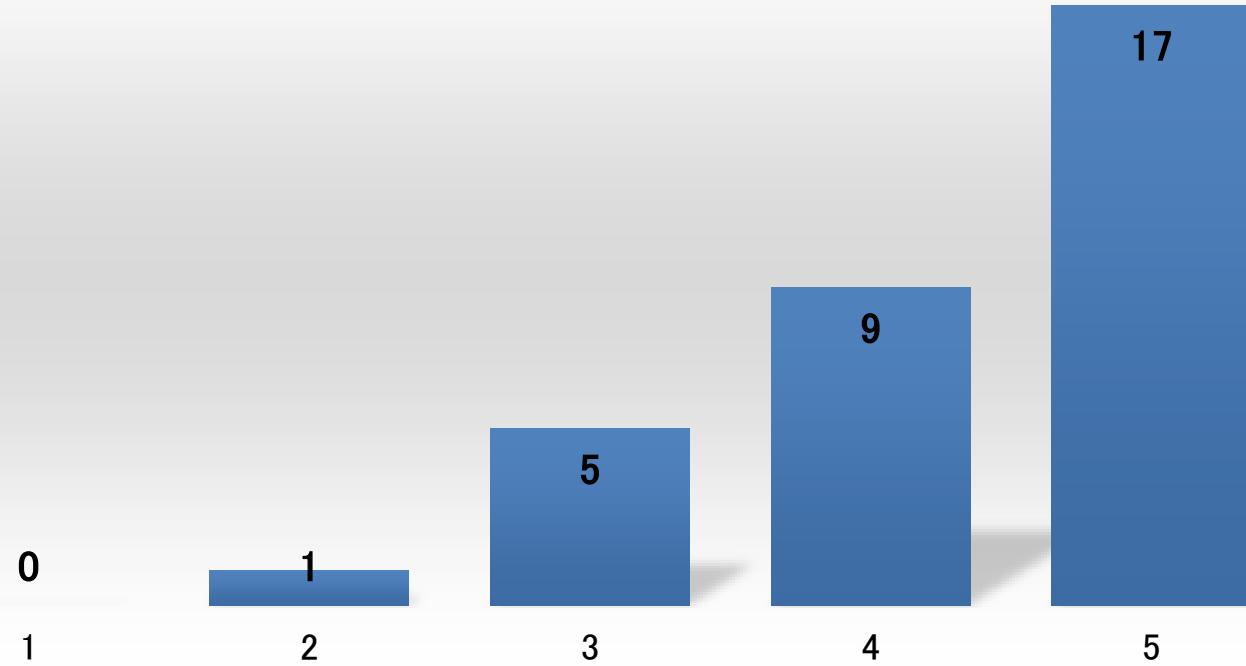
## トピックス

- 回答者全員で3以上の高評価
- バラつきについては受講者のバックグラウンドの差と想定

# 開催時期について

開催時期は適切でしたか？

平均評価：4.31



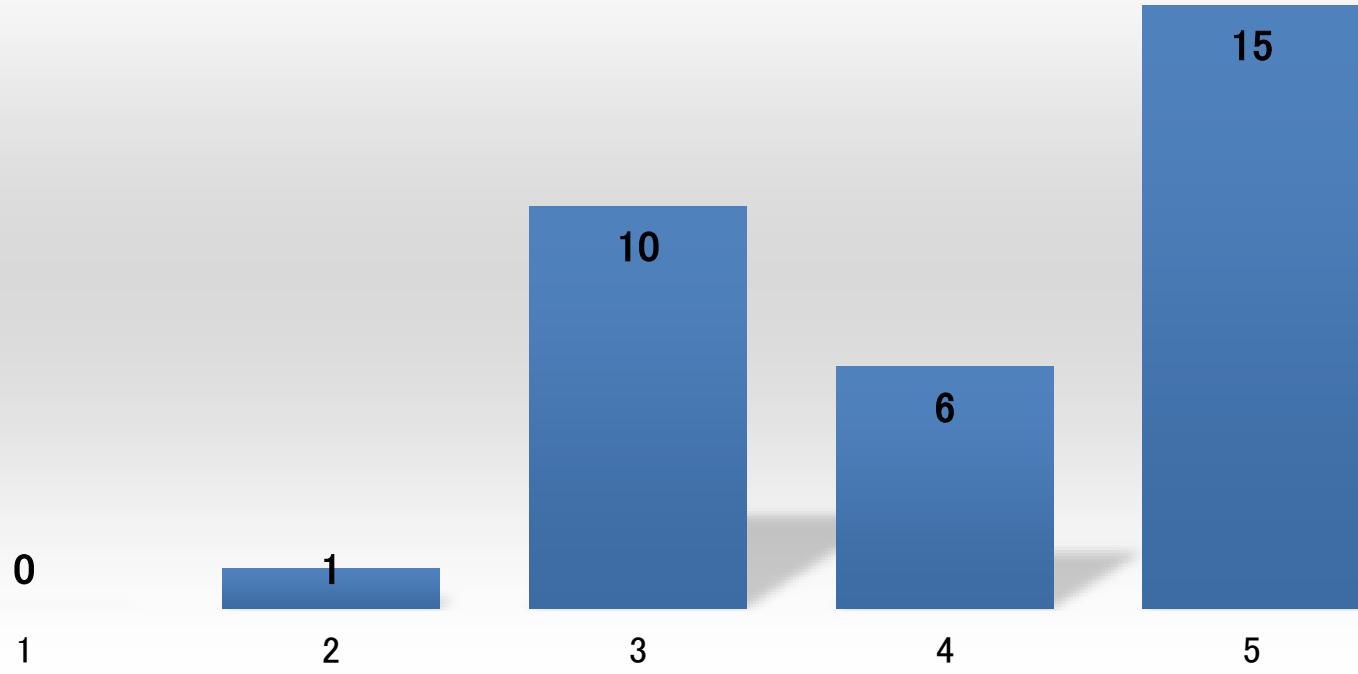
## トピックス

- 回答者全員で9割は3以上の高評価
- 結果から、開催時期は適切であったと考えられる

# 講義内容のバランス

基礎・応用の(分量の)バランスは良かったと思いますか？

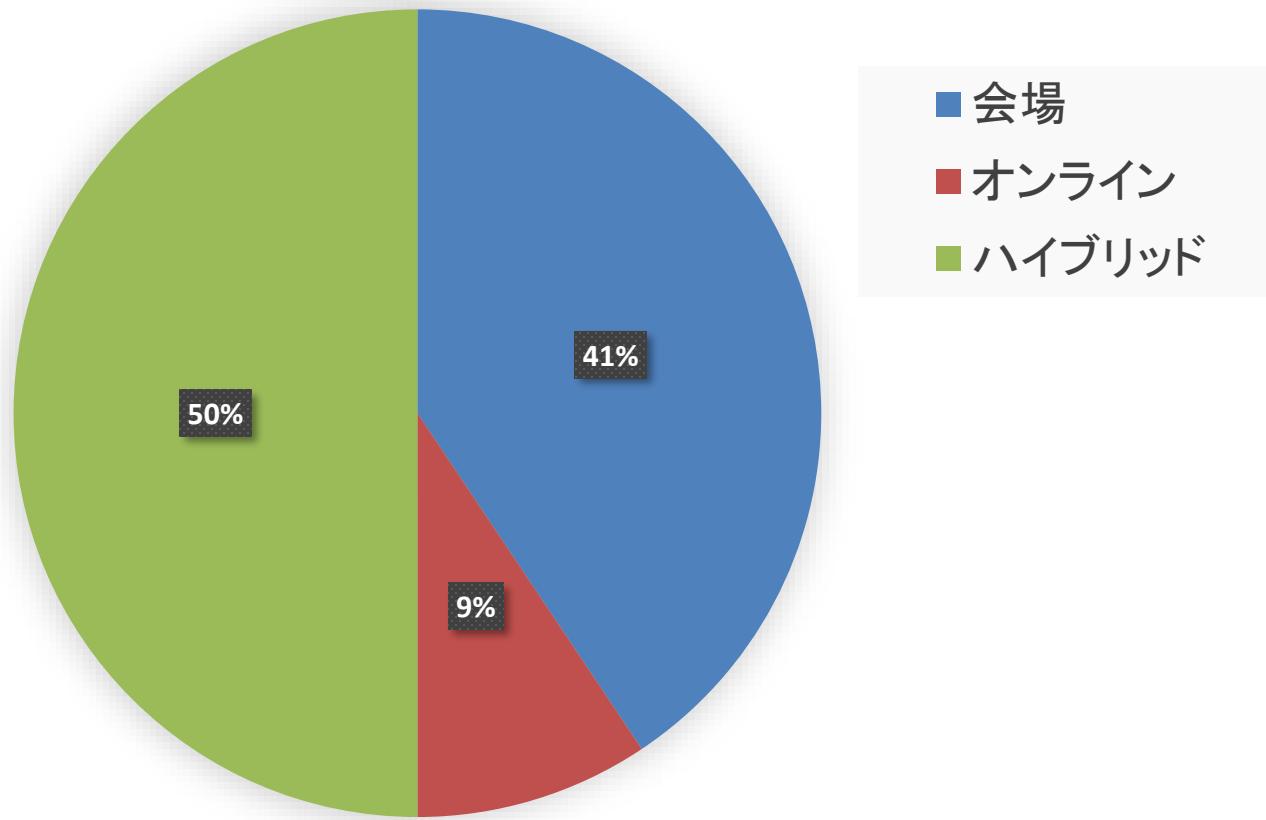
平均評価：4.09



## トピックス

- 回答者全員で9割は3以上の高評価
- 結果から、基礎・応用のバランスは適切であったと考えられる
- 2の評価について狭く深い講演を聞きたいという意見

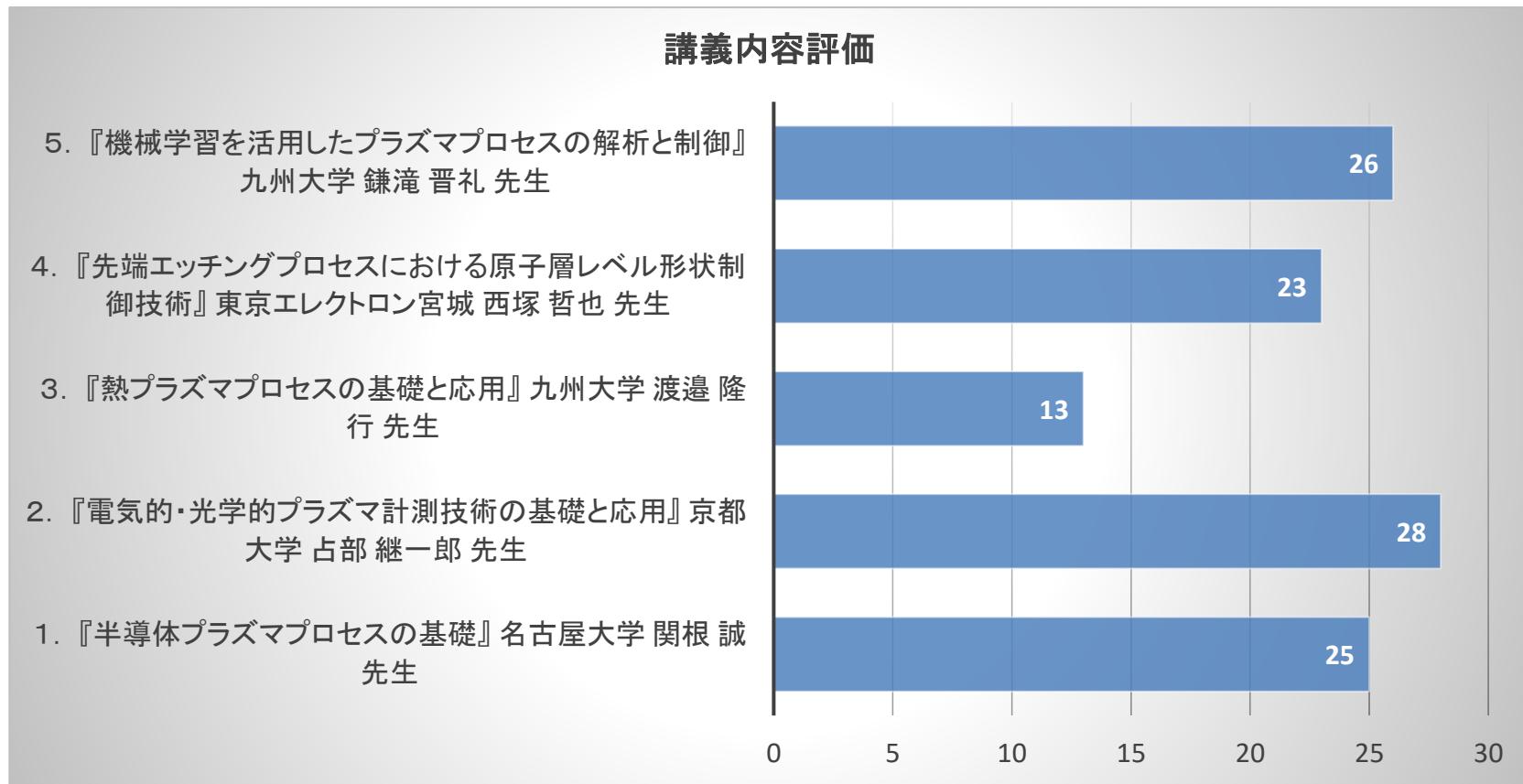
# 今後の開催形式



## トピックス

- 現地開催のみとしたせいか会場参加がオンラインを上回る。
- とはいえ、開催場所と都合の関係から50%がハイブリッドを希望する声があった。
- ハイブリッドは運営の負荷が増大するため要検討

# 興味深かった講義（複数回答）



## トピックス

- ・ プラズマの基礎的な部分やアプリケーションについて評価が高い。
- ・ 热プラズマの講義評価が他と比較して低めであった。  
→今回の参加者は低温プラズマを扱う企業の方が多かったことが要因か。

# 回答理由

ID	回答	所属
1	プラズマの基礎および今の応用技術の講演が聞けたこと	企業 (デバイスマーケタ)
2	自分の業務に直結する内容であった	企業 (装置メーカー)
3	実務に関連しており参考になった。	公立研究機関
4	理解できる部分があったため。	企業 (装置メーカー)
5	現在の業務と関わりがありながらも、 学習する機会があまりなかったテーマだったため。	企業 (装置メーカー)
6	自分の研究に関連する話だったため	企業 (装置メーカー)
7	自分の研究テーマに関連が深い。	教職員
8	OESの取り扱いなどは自分も難しいと感じていた点が共有できた。	企業 (デバイスマーケタ)
9	低温プラズマを扱っているエンジニアとして、 今後の業務に活かせる内容であったためです。	企業 (装置メーカー)

## トピックス

- 受講者の研究内容や業務内容に近いものは興味を抱きやすい。
- 開催地によって参加される企業の方の特性が変わるため、講義内容検討時に参考とする

# 次回以降取り上げてほしいテーマ

ID	回答	所属
1	単結晶SiO <sub>2</sub> のエッチングに関すること	企業 (デバイスマーカ)
2	機械学習 AI	企業 (装置メーカー)

## トピックス

- 多くの意見は頂けなかつたが業務内容に近い講義が望まれている。
- 機械学習とプラズマに関するテーマは2年連続で取り上げており、  
昨今参加者の関心が高いと考えられる

# 運営へのコメント

ID	回答	所属
1	年末が近い時期の開催だったので、11月半ばの開催を希望しております。	教職員
2	タイムテーブルを事前に知りたいです。	公立研究機関
3	プログラムで、各講演の詳細な時間が分かると良いです。	教職員
4	こういった講演は狭く深い内容の方が関心を引くと考えた。	企業 (デバイスマーケ)
5	可能であればテキストは事前に郵送いただけます。参加前に内容を確認して講義を聞けるとより踏み込んだ議論ができるように思いました。ぜひご検討いただければと思います。	企業 (装置メーカー)

## トピックス

- 開催時期やタイムテーブル等に対するコメントを頂く  
→来年度以降参考にしていきたい

# 来年度以降に向けて

## アンケート

有効回答数: 32※終了後にQRコードを投影したため回答しにくかったかもしれない。

次回は参加者にアンケート用紙を配布及びメールでアンケートURLを送付(後日リマインド)しておく方が回答数を増やせると思う。

## 参加者

- ・ 東京開催ということもあり、関東及び東北の企業の方の参加が目立った。
- ・ 当日は会議室一杯の大盛況。オンライン開催の声も一定数あるが、都心開催時は現地開催のみでも良いと考えらえる
- ・ 講習会の内容は高評価
  - 参加が想定される分野に近いと高評価を得られやすい
  - 一方、敢えて異なる分野を含めることも知見を広める意味では重要

## 運営としての課題

- ・ プログラムやテキストの事前共有
- ・ 開催時期の選定
  - 例年11月半ば開催であったが、今回はDPSがあったため下旬に。  
最適な時期は引き続き考えていく必要がある。



	記事	テーマ			メモ
			所属	氏名(敬称略)	
1	巻頭言				古閑一憲先生に紹介者に打診中
2	寄稿	放電・プラズマ研究の科学技術史	慶應義塾大学、京都大学、名古屋大学	真壁利明、橋邦英、後内諾済	
3	学生のためのページ	大気圧プラズマの応用	九州大学	沖野晃俊	内諾済
4	研究室紹介				打診中
5	海外の研究事情				掲載なし
6	研究紹介	カーボンナノチューブのプラズマ表面処理の研究	中部大学	小川大輔	内諾済
7	プラズマエレクトロニクス賞	未定(春季応用期間中に発表)	未定	未定	
		未定(春季応用期間中に発表)	未定	未定	
8	応用物理学会講演奨励賞	F2/Ar/H2ガス系を用いたSiO2膜のクライオエッチングにおける反応メカニズム解明	キオクシア	加藤有真	打診中
9	国際会議報告	ISPlasma2025/IC-PLANTS2025	岐阜大学	上坂裕之	2025年3月3~7日開催(名古屋)内諾済
10	国内会議報告	2025年 第72回応用物理学会春季学術講演会 チュートリアル	日立製作所	松井都	2025年3月14日開催(東京理科大、オンライン)内諾済
		2025年 第72回応用物理学会春季学術講演会 プラズマエレクトロニクス分科会企画	名古屋大学	石川先生	2025年3月14~17日開催(東京理科大、オンライン)内諾済
		第45回プラズマ新領域研究会「プラズマ・微粒子間相互作用の揺らぎのフロンティア」	九州大学	古閑一憲	2025年1月16~17日開催(岐阜県土岐、オンライン)内諾済
		第7回 Atomic Layer Process (ALP) Workshop	大阪大学	浜口智志	2024年7月12日開催(東京大学駒場)内諾済
11	行事案内	2025年 第86回応用物理学会秋季学術講演会	名古屋大学	石川先生	2025年9月7~10日開催(名古屋)内諾済
		DPS2025 (46th International Symposium on Dry Process)	日立製作所	黒原優	2025年11月13~14日開催(愛媛)内諾済
		第19回 プラズマエレクトロニクスインキュベーションホール	名古屋大学	石川先生	開催日未定 内諾済
14	掲示板	2025年度(令和7年度) プラズマエレクトロニクス分科会幹事名簿	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		2025年度(令和7年度) 分科会幹事役割分担	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		2025年度(令和7年度) 分科会関連の各種世話人・委員	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		活動報告(会議議事録)	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		プラズマエレクトロニクス関連会議日程	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		広告掲載企業一覧	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	
		編集後記	ソニーセミコンダクタソリューションズ	財前義史	



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

# プラズマエレクトロニクス分科会 インフォーマルミーティング2025年3月15日

古閑 一憲

5. 第23回プラズマエレクトロニクス賞選考について



# 5. 第23回プラズマエレクトロニクス賞 選考について

2025年3月15日

(公社)応用物理学会  
プラズマエレクトロニクス分科会  
幹事長 白藤 立

第23回「応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞」(2024年度)の選考結果について

第23回「応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞」(2024年度)について、以下の選考結果を得ましたので、ご報告申し上げます。

## 1. 選考委員会委員(順不同、敬称略)

選考委員長：近藤 博基(九州大学)  
選考委員：占部 繼一郎(京都大学), 竹田 圭吾(名城大学),  
伊藤 剛仁(東京大学), 豊田 浩孝(名古屋大学),  
市来 龍大(大分大学), 大場 富仁(ラム・リサーチ),  
高橋 克幸(岩手大学)

## 2. 選考の経過

第23回「応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞」の公募を行ったところ、応募の締め切り期日までに、自薦・他薦からなる6件の応募論文があった。これらについて、幹事長から委嘱して発足した上記の選考委員会において選考が行われた。

一次選考では、以下の項目に関して各選考委員がすべての論文に対して審査を行い、全委員からの一次選考結果を集計した。

- 受賞対象論文としての適合性,
- 項目別評価(独創性、将来における発展性、インパクト、論文としての完成度と理解のしやすさ),
- 総合的評価

一次選考の集計結果と、各論文に対する各委員のコメントを無記名にて選考委員会で共有し、二次選考がオンラインで行われた。一次選考の結果、今回応募された論文の多くが質の高い論文であったものの、応募総数が6件にとどまったことを鑑み、応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞に推薦可能な論文として、1編を選定する方針とした。また各論文の背景や特徴、意義、評価ポイントについて、総合的に議論を行った結果、下記の選考結果に示す1編の論文が応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞に相応しいとの合意に至った。

## 3. 選考結果

厳正なる審査・審議の結果、選考委員会は以下の1編の論文が第23回応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞にふさわしいと判断した。

対象論文1：  
*Extension of ion-neutral reactive collision model DNT+ to polar molecules based on average dipole orientation theory,*

*Journal of Vacuum Science and Technology A* 42, 053002 (2024)

著者：  
Kazuki Denpoh, Taiki Kato, Masaaki Matsukuma

受賞者：  
伝宝 一樹、松隈 正明、加藤 大輝(予定)

選考理由：  
本論文では、著者らがこれまでに開発し、当該分野での活用が進んでいるプラズマシミュレーションにおけるイオン-分子間衝突の吸熱反応衝突モデル(通称 Denpoh-Nanbu theory (DNT))を極性分子にも拡張し、全ての分子タイプ(原子、無極性分子、極性分子)に対応可能なイオン-分子間衝突モデル(DNT+DM)に発展し、モデルを完結させた。また  $H_2O^+$ - $H_2O$  衝突や  $CF_3^+$ -CO 衝突の計測結果と一致することを示し、その妥当性を証明している。これらにより、プラズマシミュレーションにおける学術的基盤としての重要性のみならず、今後のプロセスプラズマのモデル化において産業的にも高い有用性を有し、今後のプラズマプロセス技術の発展に寄与しうる応用物理学会プラズマエレクトロニクス賞を授与するに相応しい論文である。

**伝宝様他おめでとうございます!  
秋に授賞式と講演を行います。**

- 6件の応募→1件推薦
- 選考委員長の若返り
- より多くの応募



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

# プラズマエレクトロニクス分科会 インフォーマルミーティング2025年3月15日

古閑 一憲

6. 2024年度決算報告



応用物理学会

**プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division**

# 6. 2024年度決算報告

当期黒字決算約94万円

正味財産増減計算書内訳表

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

(単位：円)

科 目	プラズマエレクトロニクス分科会							合計	
	プラズマ 公1					プラズマ 会誌事業	プラズマ 表彰事業	プラズマ 分科会共通事業	
	プラズマ インキュベーションホール事業	プラズマ 新領域研究会事業	プラズマ 講習会事業	プラズマ プロセッシング研究会事業	プラズマ 国際会議事業	小計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,474,000	1,474,000
法人会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	128,000	128,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	128,000	128,000
準会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,346,000	1,346,000
分科会受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,346,000	1,346,000
事業収益	746,640	0	2,079,260	1,701,000	0	4,526,900	0	196,632	4,723,532
参加費収益	746,640	0	1,738,260	1,301,000	0	3,785,900	0	196,632	3,982,532
懇親会参加費収益	746,640	0	1,738,260	1,091,000	0	3,575,900	0	196,632	3,772,532
広告料収益	0	0	0	210,000	0	210,000	0	0	210,000
他事業受入収益	0	0	341,000	400,000	0	741,000	0	0	741,000
補助金収益	0	0	0	0	0	0	0	224,500	224,500
経常収益計	746,640	0	2,079,260	1,701,000	0	4,526,900	0	1,895,132	6,422,032
(2) 経常費用									-①当期収入合計
事業費	1,355,810	292,311	749,469	1,450,619	0	3,848,209	533,468	51,700	5,480,343
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	774,076	774,076
臨時雇賃金	0	0	0	81,600	0	81,600	0	0	60,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	63,678	63,678
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	133,686	133,686
社会保険料	0	0	0	0	0	0	0	133,686	133,686
会議費	336,140	0	47,020	588,000	0	971,160	0	0	971,160
会合費	186,140	0	47,020	108,000	0	341,160	0	0	341,160
懇親会費	150,000	0	0	480,000	0	630,000	0	0	630,000
旅費交通費	409,070	120,479	158,027	0	0	687,576	0	0	698,592
国内旅費交通費	409,070	120,479	158,027	0	0	687,576	0	0	698,592
会誌発送費	0	0	0	0	0	0	253,658	0	253,658
国内会誌発送費	0	0	0	0	0	0	253,658	0	253,658
通信運搬費	0	0	7,800	0	0	7,800	0	0	7,800
国内通信運搬費	0	0	7,800	0	0	7,800	0	0	7,800
消耗品費	0	0	3,099	7,521	0	10,620	0	51,700	62,320
委託費	0	0	0	478,060	0	478,060	0	0	478,060
印刷費	0	0	58,958	0	0	58,958	0	0	62,478
会誌印刷製本費	0	0	0	0	0	0	279,260	0	279,260
印刷代	0	0	0	0	0	0	279,260	0	279,260
賃借料	439,200	0	298,100	294,888	0	1,032,188	0	0	1,032,188
諸謝金	127,384	167,322	89,785	0	0	384,491	0	0	384,491
支払手数料	44,016	4,510	86,680	550	0	135,756	550	0	990
振込手数料	6,600	4,510	2,200	550	0	13,860	550	0	990
収納手数料	37,416	0	84,480	0	0	121,896	0	0	121,896
経常費用計	1,355,810	292,311	749,469	1,450,619	0	3,848,209	533,468	51,700	5,480,343
当期一般正味財産増減額	△ 609,170	△ 292,311	1,329,791	250,381	0	678,691	△ 533,468	△ 51,700	848,166
一般正味財産期首残高	△ 797,187	△ 510,137	5,995,616	2,081,098	△ 5,259,871	1,509,519	△ 1,928,111	△ 203,808	16,175,774
一般正味財産期末残高	△ 1,406,357	△ 802,448	7,325,407	2,331,479	△ 5,259,871	2,188,210	△ 2,461,579	△ 255,508	17,117,463

-②当期支出合計

-③当期収支差額 (①-②)

-④前期繰越収支差額 (前期残高)

-⑤次期繰越収支差額 (③+④) 次期繰越金



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

# プラズマエレクトロニクス分科会 インフォーマルミーティング2025年3月15日

古閑 一憲

7. 2025年度分科会幹事について



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

## 7. 2025年度分科会幹事について

退任幹事の皆様ありがとうございます！  
新任幹事の皆様どうぞよろしくお願ひいたします！

役割分担は近日中におしらせいたします。

新旧合同幹事会出席をお願ひいたします。

2025年度幹事会メンバー

新任幹事 (2027年3月まで)			留任幹事 (2026年3月まで)	
幹事長			古閑 一憲	九州大学
副幹事長			石川 健治 竹内 希 松井 都	名古屋大学 東京工業大学 (株)日立製作所
幹事	浅井 宏祐 金 大永 栗田 弘史 榎田 創 佐藤 樹 眞鍋 雅子 高橋 克幸 布村 正太 針谷 達 東直樹 柳生 義人 山田 大将	三菱電機株式会社 東京科学大学 豊橋技術科学大学 名城大学 サンディスク 大阪工業大学 岩手大学 産業総合技術研究所 岐阜大学 北海道大学 九州大学 長野工業高等専門学校	岩井 貴弘 内田 儀一郎 吳 準席 大下 辰郎 大島 多美子 片岡 淳司 田中 文章 田中 学 堤 隆嘉 長澤 寛規 新田 魁洲 村上 朝之 財前 義史	(株)日立製作所 名城大学 大阪公立大学 東京エレクトロン宮城(株) 長崎大学 キオクシア(株) 石川工業高等専門学校 九州大学 名古屋大学 広島大学 産業技術総合研究所 成蹊大学 ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)

退任幹事 (2025年3月まで)		
幹事長		
副幹事長		
幹事	谷出 敦 清水 鉄司 佐々木 渉太 田中 宏昌 宗岡 均 天野 智貴 伊藤 智子 富田 健太郎 全 俊豪 平松 亮 川崎 仁晴 塩田 有波	株式会社SCREENホールディングス 産業技術総合研究所 東北大学 名古屋大学 東京大学 パナソニックホールディングス株式会社 大阪大学 北海道大学 東京工業大学 ウエスタンデジタル合同会社 佐世保工業高等専門学校 三菱電機株式会社



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

# プラズマエレクトロニクス分科会 インフォーマルミーティング2025年3月15日

## 9. その他

- DPS2025との共催について
- ICRP12/SPP44開催案内他



応用物理学会

## プラズマエレクトロニクス 分科会 Plasma Electronics Division

# 9. その他 ・DPS2025との共催について

ドライプロセスシンポジウムより、

応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会への共催開催のお願い

今年度のドライプロセスシンポジウムの組織委員長を務めております、東京エレクトロニクス宮城株式会社の本田昌伸と申します。

昨年同様、第46回ドライプロセスシンポジウム（DPS2025）をプラズマエレクトロニクス分科会の共催としてご承認いただきたく、下記の事項をご確認の上、ご承認いただけますようお願い申し上げます。何卒宜しくお願い申し上げます。

### 1. 会議概要

主催：ドライプロセスシンポジウム組織委員会

会議名：46th International Symposium on Dry Process(DPS2025)

会期：2025年11月13日～2025年11月14日

会場：松山市立 子規記念博物館

### 2. 役割分担

ドライプロセスシンポジウム組織委員会は、同国際会議の運営全般を行う。応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会は、ホームページでの広報、応用物理学会のロゴの貸与、秋季学術講演会における所定の場所でのチラシ設置、その他、必要に応じて、適宜ドライプロセスシンポジウムの運営の支援を行う。また、ドライプロセスシンポジウムのHPに、共催名として（公社）応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会名を記載する。

### 3. 予算

収入：9,000,000円、支出：9,000,000円

### 4. 著作権

第46回ドライプロセスシンポジウムに投稿されたプロシーディングスの著作権は、ドライプロセスシンポジウム組織委員会に帰属し、ドライプロセスシンポジウム組織委員会が責任をもって管理を行う。

### 5. 会員への優遇措置

事前申し込みの一般参加費35,000円を応物会員の場合は30,000円とし、当日申し込みの一般参加費40,000円を応物会員の場合は35,000円とする。

宜しくお願い申し上げます。



応用物理学会

プラズマエレクトロニクス  
分科会 Plasma Electronics  
Division

## 9. その他

- ICRP12/SPP44開催案内



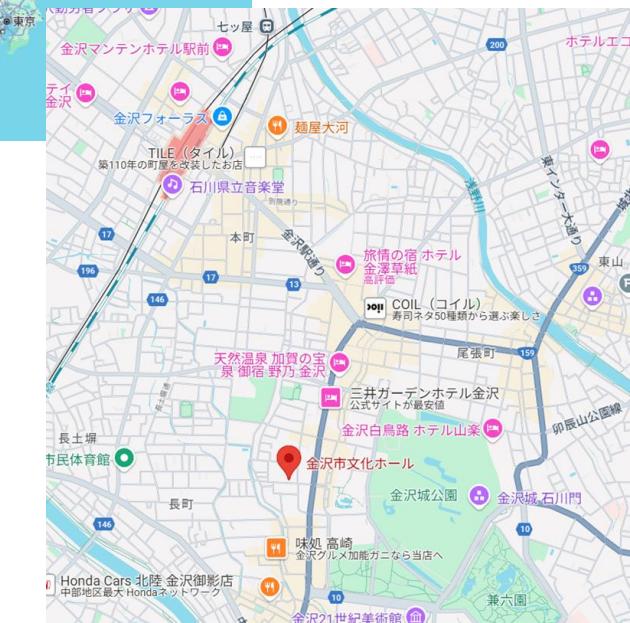
皆様奮ってご参加ください！！

開催期間：

2026年11月30日から12月3日

開催場所：

金沢市文化ホール





応用物理学会

# プラズマエレクトロニクス 分科会 Plasma Electronics Division



# ICPIG 36<sup>th</sup> edition

20<sup>th</sup> – 25<sup>th</sup> July 2025 Aix-en-Provence France

- Local chair: G. Cartry (amU)
- Co-chairs: M. Minissale, L. Couedel (CNRS)
- ISC chair: S. Nijdam (TU/e)



The International Conference on Phenomena in Ionized Gases is covering all aspects of low-temperature plasmas:  
fundamentals of plasma physics, simulation and diagnostics, all plasma sources and discharge regimes, applications



- ✓ 36 Oral contributions
- ✓ 4 poster sessions
- ✓ 5 General invited lectures
- ✓ 26 Topical invited lectures



9th Asia-Pacific Conference on Plasma Physics  
AAPPS-DPP2025  
21-26, Sept., 2025,  
Fukuoka International Congress Center  
Fukuoka, Japan



**第35回 日本MRS年次大会**

未来を創造する材料技術 —マテリアルズイノベーションへの挑戦—

■ 2025年11月10日（月）～12日（水）  
■ 北九州国際会議場・西日本総合展示場  
■ 主催:日本MRS

English

ホーム HOME 開催概要 About プログラム Program 登録 Registration お問い合わせ CONTACT



引する材料科学の重要性はますます高まっています。本会議では、持続可能な  
ベーションの役割」に焦点を当て、多様な分野の研究者や未来を担う学生が一堂  
について議論します。エネルギー・環境、半導体デバイス、生体・医療など急速  
に材料の探索・新機能の開拓・新プロセスの創出に関わる多岐にわたるテーマを  
するための新たなアイデアやコラボレーションが生まれ、産業の活性化および地  
します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

シンポジウム公募開始！  
提案書はこちらから

日本MRS入会受付

事務局  
〒231-0006  
神奈川県横浜市中区南仲通3-35  
横浜エクセルシオールⅢ 4F-D1  
FAX: 045-263-8539  
E-mail: meeting2025@mrs-i.org